

令和2年度 甲南学園 事業計画書

科学技術、情報デジタル技術の目覚ましい発展で日常生活、社会生活が著しく変化し、ヒト・モノ・カネ・情報の流通が国際的に密に素早くなる一方、国々の壁も、民族・文化の多様性、環境問題も免れがたく存在している。新型コロナウイルス感染症の広がりがどのような推移を辿るのか不透明で社会・経済・政治への影響も量りがたい中、令和2(2020)年度を迎えることになる。

本学園はこの100年、常に時代感覚を研ぎ、人格の修養・健康の増進・個性尊重の知的啓発教育からなる人物教育率先の理念を掲げ、実践してきた。このような明るく前向きに対応できる力を発揮しうる人物を輩出する本学園の教育は、今後ますますその価値を高めるであろう。

本学園が第2世紀目を歩みだし、創立100周年事業も整備・完了し、その運用・活用が活況を呈する今、本年度を初年度とする中期計画の課題を実現すべく、新型感染症に関わる不測の出費への対応も含め、令和2年度の予算編成に当たる。大学はミディアムサイズの総合大学として、高等学校・中学校は学びに集い、正志く強く、共に成長する中高一貫校の中堅として、各々の地歩を固め、更なる飛躍のための起点となるべく、引き続き教育・研究目標の達成に向け適切な予算措置を行う。

これらの点を踏まえ、学園・大学・高等学校・中学校における令和2年度の事業を計画し、以下の方針に沿って予算を編成する。

1. 予算編成にあたってのガイドライン

- (1) 人物教育率先・教育力の甲南をさらに推進すべく、大学にあつては教学新機軸、中高にあつてはコース制を踏まえた教育改革の遂行を軸とする教育プログラム実施に向け、コスト意識を持ちつつも積極的に投資する。また創立100周年記念事業にかかる案件(特に奨学金事業)を盛り込む。
- (2) 前項に対する予算配分を厚くするにあつて、他の経常的な支出の削減を、実効性を落とさないよう取り組む。特に人件費及び委託業務費は支出額が増加傾向にある実情を踏まえ、その金額及び必要性・実効性を精査・査定し、その総額管理に取り組む。
- (3) 従前より実施しているPDCAサイクルを踏まえた事業活動を、財務面の視点からもより一層徹底し、前例・慣例的な支出項目を再点検する。費用対効果(即効、中・長期効果を合わせて)に留意し、メリハリをつけ、収支改善を目指した見直しを進め、予算編成に当たる。
- (4) 上記を踏まえ、予算においては事業活動収支における経常収支差額の均衡を目指す。なお特別収支を考慮し、事業活動収入に占める事業活動支出の割合は、98.6%を目安とする。
- (5) 甲南新世紀を財務面で支えるべく、収入の各科目を点検し、多様な収入増を構築しうる方策を検討する。2020年9月までは創立100周年記念事業募金活動に注力するとともに、それ以降も教育振興募金、奨学資金等の募金活動に取り組む。また費用対効果に留意しつつ、学園資産を活用し、事業を展開する。
- (6) KONANプレミア・プロジェクトは、年度途中で成案となるものも含め、教育力の甲南を展開しうる事業・基盤整備にかかる支出を含めて250百万円程度とし、実施に際しては引当特定資産を活用する。
- (7) 戦略プロジェクトとしては先端生命工学研究所に係る事業を継続し、支出規模は230百万円程度とし、実施に際しては引当特定資産を活用する。

- (8) 資産運用収入（受取利息・配当金収入）は、理事長及び学長並びに校長より提案を受けた「21世紀に輝く学園」、すなわち、「優秀な学生への支援」、「学園の戦略広報・スポーツ強化支援」及び「国際的に卓越した研究推進」等に重点配分する。また資産運用収入確保に努めつつも、安全第一の資産運用を継続する。

2. 基本金

100周年記念事業に係る投資もほぼ完了した。基本金組入額は抑制を基本スタンスとする。但し、教育機能活性化及び学生・教職員の安全確保のための施設改修、コストに留意しつつ省エネルギー工事の実施、耐用年数を考慮しつつ既設校舎や構築物の経常的な改修・修理は緊急度に応じて推進し、キャンパスの環境充実・改善に努める。また教育・研究充実のための施設・機器の更新・購入及び図書購入等は従来通りの姿勢を堅持するが、必要性を再確認した上で、クオリティコントロールと相見積りの取得等によるコストコントロールを図る。

..... 甲南学園中期計画（2020～2024）

◆ 大学

- I. 教学新機軸の推進・発展
 1. “顔がわかる”少人数教育の推進
 2. アクティブ・ラーニング（能動的学習）の推進
 3. 革新的共通教育の推進
 4. 融合型グローバル教育の推進
 5. 地域連携・ボランティア教育の推進
- II. Active-Interactive キャンパスの魅力化の推進
 1. KONAN INFINITY COMMONS（愛称 iCommons）の活用促進
 2. 白川台キャンパスの活用促進
 3. キャンパスの Active-Interactive 化の推進
- III. 教育改革の基盤整備と教育力の向上
- IV. 大学運営の持続的発展

◆ 高等学校・中学校

- I. 教育プログラムの開発・整備
- II. 国際交流の推進
- III. 教育環境の整備
 1. AV・ICT 環境の整備
 2. 学びの環境整備と学力の定着
- IV. 高中運営の持続的発展

◆ 法人

- I. 学園運営の一層の健全化
 1. 学園教育機能充実のためのガバナンス体制の点検・整備
 2. 高等教育機関としての研究機能向上と社会・地域への貢献

3. リスクマネジメント体制の強化
 4. 強靱な組織体制の構築と整備
- II. 安心安全かつ環境にやさしいキャンパス整備
- III. 財政基盤の強化
1. 健全な財務体質の維持・向上
 2. 学納金収入以外の財源多様化の推進
- IV. 社会との結節点としての広報機能の拡充

. **Highlight 2020**

◆ **甲南大学の教育改革**

➤ **全学教育推進機構の設置と稼働**

令和元年度に、甲南新世紀ビジョンに基づいた3ステップからなる全学共通教育改革の最終段階として、「全学教育推進機構」の設置が決定した。「甲南学園100年の歩み」にある「人物教育」のパースペクティブに大学教育の側から応え、文部科学省「2040年に向けた高等教育のグランドデザイン」に対応することも視野に収め、全学教育推進機構のもとに共通教育センター、スポーツ・健康科学教育研究センター、教育学習支援センター、リカレント教育センター（新設）を再編・配置し、「徳・体・知」の人物教育の基盤を支える一体的な共通教育体制の整備、教育の質向上のための全学的な取り組みの強化、リカレント教育などの社会的要請への対応等、全学教育の機能的充実とその実践に取り組む。

➤ **リカレント教育センターの新設**

文部科学省「2040年に向けた高等教育のグランドデザイン」のうち、多様な学生の受け入れ方策として、新たにリカレント教育センターを立ち上げる。当初の取り組みとして、文部科学省が定める履修証明制度を活用し、「人生100年時代」に対応したプログラムを開設・推進する。

➤ **新世紀ビジョン2020の実現と次期ビジョンの策定に向けた取組推進**

「KONAN U.VISION 2020—甲南新世紀ビジョン—」の完成年度として、その実現に向けて、教学新機軸の取り組みと教育改革の基盤整備を推進するとともに、次期ビジョンの策定に向けた諸活動を推進する。次期ビジョンの策定に向けては、社会の変化を見据えた長期的な視点を加えながら、2020年度を初年度とする甲南学園中期計画を踏まえ、また、現ビジョンに関する取り組みの成果を受け継ぎ、一貫性をもって持続的に発展するための大学全体の方向性を明確にしていく。

◆ **戦略事業**

➤ **先端生命工学研究所（FIBER）の第2期プロジェクト7年目の研究推進**

「FIBER 第Ⅱ期計画」に基づく研究、および文部科学省科学研究費助成事業「新学術領域研究・分子夾雑の生命化学」（平成29年から5年間）に採択された研究を推進し、分子混雑状態の中での核酸の機能の動態を解明し、先制核酸医工学や創薬等に活用できる成果を生むことを目指す。

また、継続中のスロベニアやロシアとの共同研究のほか、核酸研究の国際的センターとして国内外の研究機関や大学と密に連携し、「神戸医療産業都市」をはじめとする地域連携、教育への還元や社会貢献活動などを進め、研究活動の促進につなげる。

I. 大学・大学院

1. 教育

(1) “顔がわかる”少人数教育の推進〔中期計画：大 I-1〕

最適な授業規模の維持およびその運用方法の確立。IC 学生証による出席管理の活用と拡充。ポータルサイト MyKONAN の充実。学生一人ひとりの自律的成長を支援・促進する学修ポートフォリオの活用と促進。一人ひとりの学生がもつ力を評価認定する「KONAN サーティフィケート」制度の推進。

(2) アクティブ・ラーニング（能動的学習）の推進〔中期計画：大 I-2〕

アクティブ・ラーニングを取り入れた新しい授業形態の経験交流と推進。PBL（Project-Based Learning）型授業の拡充と制度・環境等の充実。学生の授業時間外での成長を支援・促進する取組・環境の整備・充実。ラーニングサポート（LS）に関わる学生の育成と活動の活性化。

(3) 革新的共通教育の推進〔中期計画：大 I-3〕

「共通基礎演習」をはじめとした共通科目・全学教育の充実。高学年を主たる対象とした「キャリア創生共通科目」の充実。全学教育推進機構を中心とした学際的・横断的教育、社会教育への挑戦。

(4) 融合型グローバル教育の推進〔中期計画：大 I-4〕

どの学部に入学者でも国際力・専門能力・行動力を兼ね備えた人物を育てる融合型グローバル教育の推進と体制強化。外国語教育、国際理解教育の一層の充実・発展。ダブルディグリー制度などアカデミックな留学の推進と多様なプログラムの整備・充実。グローバルゾーン“Porte”の一層の充実・発展。正規留学生の受け入れ体制の整備。

(5) 内部質保証活動の持続的発展と認証評価対応〔中期計画：大 III〕

第3期認証評価の受審と対応。内部質保証体制による PDCA サイクルの実践と課題の解決・改善。令和元（平成 31）年度に示した内部質保証委員会提言に基づき、次期ビジョンと中長期計画の策定に向けた検討の推進、内部質保証活動における検証方法の改善・向上と PDCA サイクルの機能強化、卒業時の質保証に関わる制度・仕組みの改善、学習成果に関する自己点検・評価制度の充実、定員管理のさらなる徹底と大学院の定員充足に向けた取組みの推進を図る。

2. 研究

(1) 研究力の可視化〔中期計画：大 III〕

「甲南大学研究力可視化プロジェクト」を継続実施。甲南大学の高い研究力を可視化し学内外に公開。公開用 WEB ページを高校生ほか広く一般の方々にも分かりやすくアピールできるものへ改良。

(2) 研究支援体制の強化

各種競争的研究資金の申請から管理・執行までの一元的支援体制を強化。産官学連携コーディネーターとの連携等による、各種助成金・競争的資金にかかる積極的な情報提供を推進。

(3) 研究費の適正管理・コンプライアンスへの対応

「研究機関における公的研究費の管理・監査のガイドライン（実施基準）」に準拠した研究支援・不正防止体制の整備、コンプライアンス教育の実施。

(4) 知財管理・活用体制の整備

「甲南大学知的財産戦略」「甲南大学知的財産ポリシー」等に基づき、重点分野として定めた生命科学・環境科学・エネルギー科学・情報科学の分野を中心に、知的財産の適切な管理と有効活用を推進。本学の有する知的資産の有効活用に向けた学外への広報活動の体制整備。教員に向けたリスクマネジメント研修会等の実施。

(5) 学内の各種研究助成による研究支援

「平生太郎基金」、「伊藤忠兵衛基金」をはじめとする甲南学園教育・研究基金等の運用果実を活用した研究・出版・外国人研究者招聘等への助成。

3. 学生生活支援

(1) 奨学金・就学支援制度の安定運用と更なる充実

「高等教育の修学支援新制度（給付型奨学金・授業料等減免）」の安定的運用を推進。「わがくるま星につなぐ」甲南の星奨学金（入学前予約型給付奨学金）の効果的な広報。その他の奨学金制度の積極的な周知・広報による学生生活支援。

(2) KONAN サーフティフェイト の活性化

「人物教育率先」の理念に基づき、授業では評価しきれない学生の個性ある挑戦を評価認定する「KONAN サーフティフェイト」制度を充実化。新たに設けた「KONAN ラーニングサポートサーティフェイト」の定着化を図る。

(3) 障がい学生支援体制の整備・再構築

障がい理解啓発活動を推進。車いす体験講座、ノートテイク・PCテイク講座、障がい理解啓発ポスター展示、障がいサポーター養成講座等を発展的に実施し、より多くの学生の参画を目指すほか、学生ボランティアの育成・拡大にも注力。YOUステーション（支援室）はより安定的な稼働を目指す。

(4) キャリア形成・就職支援

保護者との連携を強化し就職支援に関する疑問や不安を解消。増加傾向にある公務員志望者へのサポートプロジェクトの充実。地方自治体との就職協定に基づいた連携強化。

(5) 学生生活支援の充実化

人物教育の一環として、学生と共に学生のマナーアップに取り組む体制を構築。身近なトラブルの予防に向けた指導を強化。学生の健康保持・増進。KONAN スポーツ応援プロジェクト推進等による課外活動支援を実施。

(6) スポーツ教育力の強化

スポーツ強化支援事業として体育会強化指定クラブを積極的に支援。体育会に所属する学生に対し、修学・キャリア等の支援プログラム「甲南アスリートサポートプログラム（KASP）」を提供し、学業とクラブ活動の両立を支援するとともに、プログラムの更なる充実を目指す。

4. 社会連携・社会貢献

(1) 「関西湾岸 SDGs チャレンジ」の実施〔中期計画：大 I-5〕

過去 2 年間の実績を踏まえ、内容の見直しや体制整備、広報活動の活性化を実施。国際的な課題である SDGs に対し、本学の特色を生かしてより一層充実した活動を展開。

(2) 地域連携・ボランティア教育の推進〔中期計画：大 I-5〕

「KONAN ボランティアサーティフィケート」の定着と活性化を推進。学生と地域ボランティア団体との連携強化を支援。学生プロジェクトの一層の充実を図る。

(3) 大学間連携の推進

文部科学省「私立大学等改革総合支援事業（タイプ 3、プラットフォーム型）」の採択を踏まえ、「大学コンソーシアムひょうご神戸」の主要メンバーとしての大学間連携活動を一層強化。「ひょうご産官学連携協議会」における各プロジェクトを推進。

(4) 自治体・各種団体等との地域連携事業の推進〔中期計画：大 I-5〕

自治体・企業・各種団体等との連携を強化。兵庫県・神戸市のほか、瀬戸内・関西湾岸地域・中国四国の各自治体と結んだ協定活用等による連携活動を充実・発展。

(5) 産官学連携活動の推進

本学の知的資産の有効活用に向けた産業界・官公庁・協定機関との連携を強化。研究力の可視化により学内外へ研究成果を発信。産学連携戦略とアクションプランを策定。

(6) 生涯学習支援・地域の児童や生徒に向けた取組み

公開講座、各種シンポジウム等を積極的に開催。小中高や子ども達、地元に向けた取組みとして、各種の子育て支援・高齢者支援事業のほか、「甲南大学キッズフェスティバル」「ひらめき☆ときめきサイエンス（独立行政法人日本学術振興会）」「FIBER 未来博士アカデミー」等を継続実施。

5. 高大接続・学生募集・入学試験

(1) 入学者選抜制度の改革と検証〔中期計画：大 III〕

「一般選抜」前期日程では、地方試験会場に大阪南部（難波）を新設。「総合型選抜」では、従来の公募制推薦入試を「教科科目型」とするほか、従来の AO 入試、帰国生入試、社会人入試を、「個性重視型」の A 区分、B 区分、C 区分として実施。各入学試験における志願傾向、入学後の成績等を分析し、当該試験の有効性等について検証を実施。

(2) 高大接続活動の継続的展開と対象地域への活動強化〔中期計画：大 III〕

全学的な高大連携活動の充実に向け高大接続推進企画運営委員会の体制・活動を強化。本学の高大接続活動の重要な柱である「リサーチフェスタ」について、更なる内容の充実を図り、実施体制を整備・強化。高等学校とのコミュニケーションの深化を目指して第 2 期高校訪問活動を活性化させ、『KONAN DATA BOOK』『KONAN DIGEST』の継続活用と、必要に応じた改訂を実施。

(3) アドミッションセンターの活動充実

「フリーキャンパスビジット」等により来学者とのコミュニケーションを深化させ「甲南大学のエントランス」としての機能を充実。本学への志望度の高い志願者を広く生み出すため、各種冊子媒体・SNS・WEB 等の充実とイベント実施等により本学の魅力を積極的に広く発信。

6. キャンパスの魅力化・環境整備〔中期計画：大 II〕

既存の施設に加え、近年整備したグローバルゾーン、Science Active Learning Commons (SaLaCo)、白川台キャンパス、iCommons 等を人物教育の拠点として、キャンパス全体の有機的な連携・魅力化を図り、相互啓発・融合・創発が起こる Active-Interactive

キャンパスのさらなる充実化を進める。特に Active-Interactive キャンパスの中核施設と言える iCommons においては、施設・設備を最大限に活用し、学生による様々な活動を全面的に力強く支援。加えて諸活動の可視化の推進と管理運営体制の充実化を図る。

II. 高等学校・中学校

1. 教育〔中期計画：高 I〕

- ・ フロントランナーコース生を対象とした中学 2～3 年生の「サイエンスラボ」「グローバルラボ」、高校 2 年生の「ハイレベルサイエンスラボ」の実施。
- ・ 高校 1～3 年生のアドバンストコース生を対象に「志厚き人類社会国家有用の材幹を養成」を体現する「キャリアデザイン」教育を実施し、OB 企業訪問や有識者による講演を実施。
- ・ 各界の第一線で活躍されている著名人を招聘した講演会「ソフィア」による人物教育の実施。
- ・ 中学 3 年生全コース生および高校 2 年生アドバンストコース生を対象に、社会で活躍されている卒業生を招聘した「OB ワークショップ」の実施。
- ・ 「KONAN DAY」「甲南高等学校－甲南大学 引継式」等、甲南大学との連携強化。環境学習の実施による、甲南小学校・甲南女子中高・甲南大学との連携強化。

2. 学習活動支援・学校生活支援〔中期計画：高 I〕

- ・ 教育支援システム「Classi」による学習サポート・進路指導等を強化。
- ・ ネイティブ教員が中心となってプログラムする「English Day」の実施。
- ・ 高校 1～3 年生のフロントランナーコース生を対象とした「学習合宿」の実施。
- ・ デジタル教科書の利用、授業の ICT 化、アクティブ・ラーニングの推進。
- ・ 学習遅進者へのケアに向けたプログラムの導入。

3. 国際交流活動〔中期計画：高 II〕

- ・ 「グローバル・スタディ・プログラム」の一環としての高校 2 年生の海外留学実施。
- ・ 高校 2 年生フロントランナーコース生を対象とした NASA サイエンスツアーの実施。
- ・ 「グローバル・ファウンデーション」の一環としての中学 3 年生対象「スプリングセミナー」、及び希望者によるオーストラリア語学研修の実施。
- ・ タイへのスタディツアーにより現地校・現地企業などと交流。

4. 生徒募集・入学試験〔中期計画：高 IV〕

- ・ 学校案内冊子のリニューアル、教育情報誌の活用や各種広告の掲載等により、本学の魅力を校内外に伝える様々な取り組みを実施。
- ・ 入試説明会、学校訪問による生徒募集活動の強化。

5. 環境整備〔中期計画：高 III〕

- ・ 学習センター、理科実験室等の AV・ICT 環境整備。
- ・ アクティブ・ラーニング環境の整備、充実化。

III. 法人

1. 学園運営の一層の健全化〔中期計画：法Ⅰ〕

(1) 学園教育機能充実のためのガバナンス体制の点検・整備

理事会による学園（大学・高等学校・中学校・法人）の諸課題の整理と改善策の検討開始など。

(2) リスクマネジメント体制の強化

災害発生時に備えた対応策の検討、コンプライアンス違反への対応・防止体制の確立、サイバーセキュリティ対策の強化。

(3) 強靱な組織体制の構築と整備

業務の専門化への対応とともに組織横断的に業務を展開する仕組みを検討。業務の電子化推進等による実効性・効率性の向上。教職員の健康管理体制の整備。

(4) 中期計画の進捗管理と見直し作業

中期計画（2020～2024）の単年度目標達成状況確認作業と、次年度（令和3年度）へ向けての調整。

2. 安心安全かつ環境にやさしいキャンパス整備〔中期計画：法Ⅱ〕

(1) 快適・安全なキャンパスづくりと省エネの推進

六甲アイランド北敷地のラグビー場兼サッカー場人工芝更新工事、1・3号館庭園防水改修工事、外壁タイル調査、ブロック塀改修。空調設備更新及び照明LED化による年1.5%を目標としたエネルギー使用量削減。

(2) 情報通信環境の整備

サイバーセキュリティインシデント発生時の迅速な対応に向けCSIRT（Computer Security Incident Response Team）を設置。サイバーセキュリティインシデントや機器の障害による被害極小化のため、学内ネットワーク機器及びサーバの24時間365日リモート監視を実施。

3. 財政基盤の強化〔中期計画：法Ⅲ〕

中期計画策定時に立案した学園資金計画を点検・見直し。安定した資金繰りを見据え、中長期の施設設備計画策定を検討。

4. 社会との結節点としての広報機能の拡充〔中期計画：法Ⅳ〕

(1) 芸術活動・スポーツへの協賛などの地域創生への参画

青少年育成や地域社会への貢献を目指し、兵庫県立芸術文化センター、堺ブレイザーズ、西宮ストークスをはじめとする地域性の高い諸団体へ協賛・支援。

(2) 卒業生・同窓会組織との連携

広報誌『KONAN TODAY』を充実・発行。「オール甲南の集い」ほか各種行事の同窓会との共催。各地甲南会等との関係強化。入学宣誓式への卒業生招待を（令和3年度より）再開。

(3) 甲南の持つ歴史的・文化的資産の再評価と社会への発信

『甲南学園の100年』出版。貴志康一作品の出版と演奏機会拡大に向けた取組みを継続実施。長谷川三郎作品の展覧会への作品貸出、学外専門家と連携した保全・保管の取組み開始。